



RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE
2024.10.1



みなさんこんにちは。ボランティアコーディネーターの齋藤です。

私は今夏「学生コーディネーター研修合宿(2泊3日)」と「立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト(令和6年能登半島地震)」における第2弾の活動(5泊6日)、そして「農業体験 in 山形県高島町(4泊5日)」の運営に携わったのですが、各地で合宿していたらあつという間に夏休みが終わってしまいました。本当に一瞬で過ぎ去ったように感じます。寂しいです。。

9月中旬には、「立教チームで活動する1dayボランティア」のプログラムとして、昨年に引き続き埼玉県新座市で開催される「大江戸新座祭り」に携わったのですが、実は私、今年度から「大江戸新座祭り実行委員会」に参画しました！

昨年度は立教チームの代表者として関わっていましたが、お祭りを更に盛り上げたい！良くしていきたい！と考え、学生ボランティア(跡見学園女子大学・十字学園女子大学・立教大学)を統括するボランティア担当になったのです。

春から様々な準備を重ね、とうとう迎えた当日は9月中旬にもかかわらずなんと35℃！暑い中での活動になってしまいましたが、多くの市民に来場いただき、学生ボランティアも大活躍していました。

昨今、夏祭りをはじめとする地域の伝統的な催事の継続が難しくなっています。参加者は多いのですが、その運営を担う人がなかなか集まりません。

経済的な厳しさも当然ありますが、それ以上にその地域の文化を魅力を価値を多くの人に関わりによって支えていくことが重要で、それがなければ未来につないでいくことはできません。このような社会課題に対して、前向きにその解消に取り組めるのがボランティア活動の魅力の一つ。大変な部分もありますが、だからこそ得られるものもあります。”楽しさ”だけで終わる場もあると思いますが、その先に大変さを含んだ”おもしろさ”を感じられる場があるはずです。自分にとって楽ではないかもしれない、快適ではないかもしれない、その一歩先の選択肢に、自分と社会の成長の場があるかも。

私はこれからも学生のみなさんと一緒に、そんな”おもしろい”場で挑戦し続けたいです。

池袋キャンパス ボランティアコーディネーター
齋藤元気

各コンテンツの詳細は、ボランティアセンター公式【note】からご覧ください！

https://note.com/rikkyo_volunteer/n/n6f671c11044e

**** 今月のCONTENTS ****

■ボラセンからのお知らせ

【1】立教生の活動を経済的に支援する「ポール・ラッシュ博士記念奨学金」の2024年度募集がスタート！

【2】ボラカフェ「2nd STEP！参加の先にある”ボランティア団体の作り方”～実際に設立した学生が教える『コツ』～」を開催！

【3】「立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト(令和6年能登半島地震)」における第2弾の活動動画をYouTubeで公開！

【4】貸し出し開始図書を紹介！

■ボラセン活動レポート

【1】能登半島地震における立教独自の災害ボランティア活動がスタート！ | 立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト【第1弾】

【2】「学生コーディネーター研修合宿」を行いました！ | 1日目

【3】秋学期に実施予定の企画がたくさん生まれました！ | 学生コーディネーター研修合宿2日目

【4】この合宿での熱量を今後の活動でも忘れずに・・・！ | 学生コーディネーター研修合宿3日目

【5】復興支援のボランティアニーズは残っているのか？ | 立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト【第2弾】(1/2)

■ボランティア関連情報

* 助成金・補助金等の情報 *

【1】2024年度「パルシステム埼玉 市民活動支援金」募集のお知らせ

【2】2025年度「環境市民活動助成(未来へつなごう助成)」募集のお知らせ

■RSLセンターからのお知らせ

■陸前高田サテライト事務局からのお知らせ

【1】2024年度陸前高田交流ツアーを開催

【2】岩手県陸前高田市立高田第一中学校との交流プログラムを実施

■□■ 巻末コラム ■□■

こんにちは！ボランティアセンター職員の佐々木です。

いよいよ秋学期、2024年の後半がスタート。この夏休み、学生の皆さんはどのように過ごされましたか？ きっと素敵な出会いに恵まれ、大きく成長できたことと思います。

私は夏季フィールドワーク「農業体験 in 山形県高畠町」にスタッフとして参加し、学生や現地の皆さんたちとともに過ごすことができました。

このプログラムは1989年にスタートし、中止や担当部署の変更など、紆余曲折ありながらも35年間続いているものですが、当時、このプログラム開始にあたって、日本の有機農業の先駆けであった高畠町上和田有機米生産組合の星寛治さんに縦書きで手書きのお手紙をお送りし、お電話で最初にコンタクトしたのは私でした。

当時、産休から復帰したばかりで育児と仕事の両立に追われていたため、プログラム実施が実現しても、現地に出向くことができないまま、学生部から転出。10年近く在籍した学生部での仕事の中での唯一の心残りが高畠町に行けなかったことでした。

しかし、その後、30年近くたって、ボランティアセンターに配属されたところ、農業体験の主管部署がボランティアセンターになっていたため、人生の再履修、伏線回収のように、高畠町に行くことができ、神様の粋な計らいに素直に感謝でした。

その昔、事務方のサポートをしていたので、受け入れ先の方のお名前は存じ上げていましたが、30年近くもたつと、代が替わり、受け入れ農家の子どもさんたちが立派な後継ぎとなっていました。

学生と寝食をともにするのも、当時であれば学生と年齢が近かったのに、今や「子ども以上、孫未満」の年齢差。体力的にも不安要素が多くなっていました。

一方で、古民家を改修した民俗資料館での雑魚寝生活が、素敵なコテージが3棟建設され、食事や振り返りは民俗資料館、寝るのはコテージと快適な生活環境になっていました。自然豊かな環境に身をおいて、手間暇のかかる有機農業によるお米や野菜づくりをされている農家の皆さんと共に過ごし、学生と一緒にワイワイとご飯を作って食べるという大学職員ならではの経験は、年齢も忘れるくらい楽しく、有意義な時間でした。

受け入れ先の上和田有機米生産組合の皆さんの畑や田んぼは、ご自宅から離れた複数個所に点在していて、カーナビも空白地帯なので、活動先を見て回るのも一苦労でしたが、2年目でだいぶ把握できたのも個人的に満足です。

職員人生も長くなり、様々な業務を担当してきましたが、総仕上げの段階である今、学生と立場や年齢を超えてフラットに話ができる環境で仕事ができること、学生の成長を間近に見られる立場でいられることに喜びを感じています。やはり、大学は学生が主人公。私たち職員は黒子ですが、少しでも多くの学生の学生生活にコミットできれば職員冥利に尽きます。また、この喜びを多くの若手職員にも経験して欲しいと強く願うばかりです。

そして、学生の皆さんには、立教大学が提供する様々な機会＝チャンスを見逃さずにつかまえて欲しいです。自分を変えたい！と思ったら、面白そうなことにまずは身を投じて、流れに乗ってみてください。

きっと新しい仲間や、世界に出会えます！！若い今の失敗は、その後の人生のネタとして生涯使えますので、できるだけ沢山のネタを作っておくことを人生の先輩としてお勧めします。以上！

佐々木 ルリ子
(社会連携教育課 主幹)

立教大学ボランティアセンター

池袋キャンパス(5号館1階)・新座キャンパス(7号館2階)
開室時間: 月～金 9:00～17:00

▼ボラセンWebページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

▼メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

▼X(@rikkyo_volucen)

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

▼Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

配信停止を希望の場合は以下のGoogle Formを送信してください

<https://forms.gle/PRuubMtYvuHVfKoG8>

(C)2019 RVC all rights reserved.
